

《小児の予防接種の考え方と選択 2018》 [ケース毎に、接種記録や行動・認識・準備期間など、ワクチンの種類によっても異なる]

1) 東(中国、韓国、モンゴル)・東南(フィリピン、タイ、ベトナムなど)アジアの都市部への帯同 《乳幼児の定期接種以外》  
(MMRV:麻疹風疹おたふく水痘の抗体検査)

《幼児～学童》	破傷風	DPT	A型肝炎	B型肝炎	日本脳炎	狂犬病	IPV	髄膜炎菌	腸チフス	ダニ脳炎	MMRV	インフル	黄熱
初日	×	◎	◎	◎	◎	△				△	◎	□	
1週間後						△					(不足分を追加)		
3～4週間後				◎	◎	△					◎	□	
6カ月～1年後			◎	◎									
1年後					◎								□
3-5年後						△							

【 ◎:ぜひとも[推奨]      ○:できるだけ[推薦]      □:できれば[推選]      △:希望なら      ×:禁忌 】

A型肝炎は1歳以上で検討する。1回0.5mlで半年あけて2回で十分。3歳頃までは罹患してもほぼ発症しない。現地でも追加可能  
 B型肝炎は乳児期から可能。10歳未満で1回0.25ml、10歳以上で1回0.5ml。4週間後と4か月後の3回接種。現地でも追加可能。  
 日本脳炎は6か月から可能、3歳未満は1回0.25mlで4週間あけて2回接種。3歳過ぎに0.5mlで追加する。年齢相当(2期)を完了する。  
 DPT3種混合《破傷風ジフテリア百日咳》は、定期接種の最終から5年以上経過すれば1回追加。ジフテリアと百日咳の流行に対応する。  
 狂犬病は哺乳類に咬まれてから5回接種して発症を抑制するが、事前接種希望なら3回済ませる。1週間後と3-4週間後の3回。  
 狂犬病を計画する時は、2回目にも他のワクチンを振り分ける。  
 MMRV;麻疹・風疹・おたふくかぜ・水痘を1回以上接種後に抗体検査をして不足分を追加する。その再検査も計画。

2) 南西アジア(インドとその周辺諸国)・中東諸国の都市部への帯同 《乳幼児の定期接種や通常の接種以外》  
(MMRV:麻疹風疹おたふく水痘の抗体検査)

《幼児～学童》	破傷風	DPT-P	A型肝炎	B型肝炎	日本脳炎	狂犬病	IPV	髄膜炎菌	腸チフス	ダニ脳炎	MMRV	インフル	黄熱
初日	×	◎	◎	◎	◎	○					◎	□	
1週間後						○		○	○		(不足分を追加)		
3～4週間後				◎	◎	○					◎	□	
6カ月～1年後			◎	◎									
1年後					◎								□
3-5年後						○							

【 ◎:ぜひとも[推奨]      ○:できるだけ[推薦]      □:できれば[推選]      △:希望なら      ×:禁忌 】

A型肝炎、B型肝炎、日本脳炎、狂犬病、およびMMRVの説明は、1)と同じ。  
 DPTは、追加接種時の時期は同様。周辺国ではポリオのリスクがあるのでIPVを含んだ4種混合[DPT-IPV]での追加を推奨。  
 腸チフスは、2歳以上推奨。インド、ネパール、バングラディッシュ、スリランカ、ミャンマーなど  
 髄膜炎は、中東諸国[パキスタンからトルコ、エジプトなど、および中央アジア]では推奨。

《小児の予防接種の考え方と選択 2018》 [ケース毎に、接種記録や行動・認識・準備期間など、ワクチンの種類によっても異なる]

3) 中南米・アフリカ中央部に都市部に帯同 《定期接種や通常の接種以外》

(MMRV:麻疹風疹おたふく水痘の抗体検査)

《幼児～学童》	破傷風	DPT/-P	A型肝炎	B型肝炎	日本脳炎	狂犬病	IPV	髄膜炎菌	腸チフス	ダニ脳炎	MMRV	インフル	黄熱
初日	×	◎	◎	◎	△	○		□/○	□/○		◎	□	
1週間後						○		(リスクに応じて)			(不足分を追加)		
3～4週間後				◎	△	○					◎		◎
6カ月～1年後			◎	◎									
1年後					△							□	
3-5年後						○							

【 ◎:ぜひとも[推奨] ○:できるだけ[推薦] □:できれば[推選] △:希望なら ×:禁忌 】

A型肝炎、B型肝炎、狂犬病、およびMMRVの説明は、1)と同じ。  
 日本脳炎は不要だが、帰国後に定期接種年齢に間に合わなければ、初回の2回分までは4週間の間隔で済ませてから出かける  
 DPTは、追加接種時の時期は同様。アフリカ中央部ではポリオのリスクがあるのでIPVを含んだ4種混合[DPT-IPV]での追加を推奨。  
 腸チフスと髄膜炎はアフリカで推奨する。中南米はアマゾンエリアでは推奨する。  
 黄熱を接種する。1回の接種で生涯有効。

4) ロシア・ドイツおよび東欧諸国へ帯同 《定期接種や通常の接種以外》

《入学予定・学童・生徒は留学生の項を参照》

(MMRV:麻疹風疹おたふく水痘の抗体検査)

《幼児～学童》	破傷風	DPT	A型肝炎	B型肝炎	日本脳炎	狂犬病	IPV	髄膜炎菌	腸チフス	ダニ脳炎	MMRV	インフル	黄熱
初日	×	◎	○	◎	△		○			○	◎	□	
1週間後											(不足分を追加)		
3～4週間後				◎	△					○	◎	□	
6カ月～1年後			○	◎						○			
1年後					△							□	
3-5年後													

【 ◎:ぜひとも[推奨] ○:できるだけ[推薦] □:できれば[推選] △:希望なら ×:禁忌 】

DPTは4～6歳で5回目を追加する。  
 A型肝炎はドイツでは不要だが、周辺諸国では推奨。半年あけての2回法。  
 ダニ脳炎は1歳以上に適応。迅速法も可能(Fsme; 0-2w-5m、Encepur; 0-7-21d)

《小児の予防接種の考え方と選択 2018》 [ケース毎に、接種記録や行動・認識・準備期間など、ワクチンの種類によっても異なる]

5) 欧米豪先進諸国へ、長期の帯同 《定期接種や通常の接種以外》

《入学予定・学童・生徒は留學生の項を参照》  
(MMRV:麻疹風疹おたふく水痘の抗体検査)

《幼児～学童》	破傷風	DPT/Tdap	A型肝炎	B型肝炎	日本脳炎	狂犬病	IPV	髄膜炎菌	腸チフス	ダニ脳炎	MMRV	インフル	黄熱
初日	×	◎	□	◎	△		○				◎	□	
1週間後											(不足分を追加)		
3～4週間後				◎	△		○				◎	□	
6カ月～1年後 ～1年後			□	◎									□
3-5年後					△								

【 ◎:ぜひとも[推奨]      ○:できるだけ[推薦]      □:できれば[推選]      △:希望なら      ×:禁忌 】

日本脳炎は3)を参照。  
IPVは、米では4回まで要求されることがある。  
DPTは4～6歳で5回目を追加する。学童以上ではTdap(留学用DPT)を推奨。  
A型肝炎は、米国の州によっては1歳代に半年あけての2回法で推奨されている。

6) 米国留学《高校生・大学生・(小・中学生)》[定期接種以外]

(学童以上はTdapで追加が原則)

(MMRV:麻疹風疹おたふく水痘の抗体検査)

接種日	破傷風	Tdap	A型肝炎	B型肝炎	日本脳炎	狂犬病	IPV	髄膜炎菌	腸チフス	ダニ脳炎	MMRV	インフル	ツベルクリン
初日	×	◎	△	◎			◎	○			◎	□	◎
1週間後											(不足分を追加)		
3～4週間後				◎			◎				◎		
6カ月～1年後 1年後			△	◎									□
3-5年後													

【 ◎:ぜひとも[推奨]      ○:できるだけ[推薦]      □:できれば[推選]      △:希望なら      ×:禁忌 】

米国では、学童以上はTdapとIPVとB型肝炎、4週間後にIPVとB型肝炎の2回目、B型肝炎の3回目は半年後に計画する。  
BCGを接種しているので、ツベルクリンまたはIGRA検査[T-spot、QFT]で結核を否定する。初日に済ませる。  
麻疹風疹おたふく水痘の抗体検査(MMRV)で、不足分の追加接種をする。罹患記憶は証明にならない。初日に済ませて2回目で追加する。  
髄膜炎菌(MCV4)は、11歳以上または入寮予定の高校生や大学生で要求される。  
母子手帳記録と今回の追加接種と検査結果を含めた英文の証明書を発行する。